

刊行にあたって

平成3年に世田谷区で地域行政制度がスタートして30年以上が経過しました。制度発足までも約13年間にわたって検討を重ねられるなど、周到かつ丁寧な準備を経て誕生したもので、鳴り物入りで発足した当時が懐かしく感じられます。発足後も、時代の変化に応じた新たな課題に対応するために制度改正がたびたび重ねられてきました。本庁のほかに5つの地域に総合支所、28の地区にまちづくりセンターを設置する三層構造は、いまや世田谷区の行政体制を特徴づけるものです。そして、令和4年10月には、区民が安全・安心で暮らしやすい地域社会を実現することを目的として、「世田谷区地域行政推進条例」が制定されました。

せたがや自治政策研究所では、条例の検討にあわせ、令和元年度より地域行政に関する研究をおこなってきました。「世田谷区地域行政 オーラルヒストリー」は、研究所の調査研究「地域行政史とアーカイブスの構築」プロジェクトの一環として実施されたものです。

本誌は、今後の区の地域行政推進・事業実施の一助になることを目的として、これまでの区の地域行政の歴史を振り返り、主に昭和50年以降に地域行政の準備・草創期から運用に至るまでに携われた方々へのインタビューをとりまとめています。

インタビューは令和3年5月から令和4年10月までの間に計8名の方々に実施しました。インタビューにあたっては、行政資料からは把握することがむずかしい、当時の政策担当者としての問題意識、地域行政とのかかわり、政策決定の過程、制度化にあたっての苦労話等を中心にお伺いしました。

本誌は、話者の率直な思いを生き生きとした形で伝えるため、語られた内容をできるだけそのまま残すように編集をしています。当時の担当者の思いや考えを生きた言葉を記録として残し、今後の地域行政に係る政策の企画・立案の際の資料として保存し、活用してもらおうとするものです。

地域行政に携わる職員はもちろん、世田谷区職員一人一人が区政の基盤に地域行政があることを本書で再確認していただきたいと思います。また、地域行政やかつての世田谷区のありように関心をお持ちの区民や研究者、自治体職員の方々にも本記録集を手にとっていただきたいと願っております。

末筆ながら、お忙しいところ、また、コロナ禍のなか、快くインタビューをお引き受けいただいた方々に心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

せたがや自治政策研究所長 大杉 寛